

# ピープルズ・ホープ・ジャパン 2013 年度 事業報告

## 1. 概要

当期活動は東南アジア 3ヶ国での支援活動とともに一昨年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の災害支援にも前期に引き続き活動を行いました。タイ・インドネシア・カンボジアの支援活動は順調に推移し、これら海外支援に対する募金活動においては補助金を含めた収入計画（商品除く）8,950 万円に対し実績 8,943 万円とほぼ計画を達成しました。支出については計画 8,450 万円に対し実績 8,649 万円となり、この収支は+294 万円となりました。

一方災害支援活動におきましては前期同様、多くの法人・個人の方々のご支援により災害募金収入 4227 万円、商品寄付 747 万円となり、全日本病院協会と連携し主に気仙沼、石巻、多賀城の被災病院の復興のための医療機器、訪問診療用の車両等の寄贈による支出は 5,285 万円となり、災害募金残金 827 万円は次期に繰越しました。

## 2. 2013 年度 会計概要

(単位：万円)

計画		実績		
収入	計	海外支援	災害支援	計
法人募金	5,400	5,081		5,081
個人募金	760	792		792
パートナー募金	210	207		207
一時寄付	600	713		713
災害募金	2,250		4,227	4,227
公的補助金	1,980	2,150		2,150
商品	230	242 (カンボジア)	747	989
計	11,430	9,185	4,974	14,159
支出	計	海外支援	災害支援	計
インドネシア	1,900	1,701		1,701
カンボジア	1,822	1,605		1,605
タイ・ベトナム	2,501	3,150		3,150
災害支援	3,888		4,538	4,538
募金広報費	1,627	1,667		1,667
管理費	600	526		526
商品	230	242	747	989
計	12,568	8,891	5,285	14,176
当期収支	-1,138	+294	-311	-17
次期繰越	4,998	5,292	827	6,119

## 3. 支援活動報告 (事業報告)

### 3-1 東日本大震災支援活動 (総事業費 5285 万円)

全日本病院協会と連携した復興支援活動は気仙沼市医師会の協力で民間医療機関へ不足している医療機器や医療用品、備品を寄贈しました。また車両も津波で流され 訪問医療が出来ないクリニックへの移動診療車の寄贈とともに、医師会への災害支援車の寄贈を行いました。

また石巻と多賀城が新しい支援先として加わりました。石巻は仮設住宅に 1900 所帯、約 4000 人が入居している地域の仮診療所へドクターカーを寄贈し、多賀城は市内で唯一の透析医療機関が被災し、懸命の努力で復興を成し遂げたクリニックへ透析用医療機器を寄贈して、震災前のように患者が安心して治療できる為の支援を行いました。この他にも企業から医療用マスク、消毒スプレーなど数多くの支援物資を被災地へ届けました。

## 3-2 タイ支援（総事業費 3150万円）

### ① HIV/エイズ予防教育支援（補助金事業・自主事業）

2012年度同様5大学を中心に、その資金をチェンマイ保健局と折半する形で事業を行なうと共に、外務省の補助金を取得しての過去10年にわたる活動の評価プロジェクトをその対象を直近の3年間に絞り実施しました。評価結果に基づき、外務省の補助金を取得し、その対象を18の高等専門学校に展開する3年計画事業の申請を行いました。

### ② 子宮頸がん・乳がん検診推進支援（補助金事業）

外務省の補助金により2010年11月から開始した3年計画の活動を継続しており、2012年10月末には第2年目の活動地であるサンサイ郡、ドイサケット郡での活動を終了し、2012年11月より最終年度となる第3年度の活動を、ハンドン郡、サンパトン郡にて開始しています。

### ③ HOPEパートナー教育支援（自主事業）

1998年以来継続している「里親制度」プログラムを見直し、長期療養・リハビリが必要な子供達あるいはタイ国籍を持たない子供達を除き、タイでの医療保険制度の改善により無料で治療が受けられるようになった34名を卒業させました。残り25名に対しては、看護師・理学療法士と共に家庭訪問し、リハビリ治療を行うなど、個別対応のホームケアに力を入れて継続しています。担当の子供が卒業する支援者には、小児先天性心臓病手術のご支援をお願いをしました。

### ④ 小児先天性心臓病手術支援（自主事業）

今年度も昨年に引き続き多くの企業や個人からの支援のもと、子ども達の心臓病手術支援を行いました。従来のチェンマイ大学に加え、ランパン病院でも手術ができるようになり、タイ国籍を持たない子供への支援も含め42名の手術に成功しました。

### ⑤ ベトナムハノイ乳がん検診推進支援（自主事業）

ハノイの現地NPOのネットワークを利用して、タイ事務所の経験を生かした、乳がん検診推進事業を2011年1月より2年間活動しました。その成果が評価され、2013年1月からは現地パートナーをWU（ベトナム・ウーマンズ・ユニオン）と事業地を変え、規模を拡大して事業を継続しています。

## 3-3 インドネシア支援（総事業費 1701万円）

### ① バンタン州地域保健医療システム強化事業（自主事業）

西ジャワのバンタン州セラン県テイルタヤサ自治区で、MDGs目標でもある安全な出産と子供の健康な発育を目指して、村レベルの診療所を中心とした地域医療連携システム強化事業も11年を経過しました。月例の母子保健教育活動が定着、優良な医療サービスを提供できる診療所（Poskesdes）の建設支援も着実に増加し、その結果助産師分娩介助と医療施設での分娩率は80%に届くまでになり、安全な分娩確保が向上しました。異常分娩時の妊産婦搬送システムを作るための協議も開始、地域有力者の理解と協力を得て実施の道を開きました。

「栄養改善活動」では、不足している新鮮な野菜を確保するための栄養菜園活動も改善課題はあるものの軌道に乗り、当年度は特に幼児の好むメニュー開発にも力を入れ、開発メニュー数は累計100を越えました。栄養教育センターは普及活動にフル活用しています。前年度独立させていた診療所での安全な水確保のための水事業は本事業に吸収し、掘削経験を活かした手掘りによる深井戸を1本掘削しました。

### ② 感染症予防教育支援（自主事業）

バリ州で、MDGs目標の一つでもある感染症対策の、鳥インフルエンザ感染予防教育や日本では考えられないほど高い発生率の狂犬病予防対策に続き、PHJタイでの経験を生かしたHIV/AIDS感染予防教育を実施する準備に着手しました。

### ③ 画像診断技術教育支援（自主事業）

年1回定期的に経験豊富な日本の医師・技師をバリ州ギアーニア病院に派遣して画像診断技術の維持・向上を実施し、今年度で計9回になりました。画像診断教育センター構想実現につなげます。

#### ④ 口腔衛生予防教育支援（自主事業）

今年度も東バリ地区歯科医師会共催で歯科医師専門家77名を対象に小児歯科技術教育セミナーを開催し、好評でした。

### 3-4 カンボジア支援（総事業費 1847万円）

#### ① 母子保健改善のための健康な村作り事業（補助金事業）

コンポントム州での3年事業「健康な村作り事業」は、村人が正しい知識を身につけ、自主的に病気の予防を行うなど健康を守る行動ができることを目標にしています。今年度は2年目で、村の妊産婦を戸別訪問して母子保健を推進する母子保健ボランティア育成や、衛生的な生活を推進する衛生モデル世帯支援、トゥクトゥクを救急車として村で利用する搬送システム作りなどを行いました。

#### ② 母子保健 助産師トレーニング（自主事業）

2007年度よりプレイベン州で、地域の母子保健の鍵を握る保健センター助産師が、適切な助産サービスに必要な技能を修得することを目標に地元の州病院産科で実践的トレーニングを実施してきました。今年度は、プレアスダット保健行政区で育成してきた助産師8名のフォローアップを行い、習得技能の確認を行いました。今年度をもってプレイベン州での助産師トレーニングは終了しました。

## 4. その他

### 4-1 第4ヶ国目の支援候補地の調査

支援事業分野としては母子保健および地域保健改善、感染症対策とし、貧困地域に居住する母と子をターゲットに第4ヶ国目の候補国としてミャンマーを3回、ラオスを1回調査しました。特にミャンマーでは政府・保健省の協力をいただき、ヤンゴン市近郊、首都ネピド特別行政区などの国立病院や村の医療施設の調査を行いました。検討の結果、第4ヶ国目の支援国はミャンマーとしました。今後、具体的支援地を候補地から絞り込みを行う予定です。

以上